

妖精の森ガラス美術館2011年度前期企画展

エピソードでたどる… ウランガラスの世界 展

2011年3月30日 [水] → 2011年9月26日 [月]

会場 / 妖精の森ガラス美術館 2階企画展示室

主催 / 妖精の森ガラス美術館 共催 / ウランガラス同好会

監修 / 苫米地 顯 : 妖精の森ガラス美術館名誉館長・吉岡 律夫 : ウランガラス同好会

後援 / 独立行政法人日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター

協力 / 鉄道博物館・滝花喜代司・池田まゆみ



ウランガラスの神秘の輝き

妖精の森ガラス美術館

Fairywood Glass Museum

エピソードでたどる… ウランガラスの世界 展

この展覧会は、1830年代から現代まで制作が続いているウランガラスの中から、特に興味深いエピソードを持つ作品を選び出し、個々のエピソードをたどりながらウランガラスの世界に分け入り、それを広く一般の人々に紹介しようとするものです。

ウランガラスは、ガラス原料に着色剤として微量のウランを混ぜたもので、紫外線が当たるときれいな緑色の蛍光を放ちます。これは、ウラン原子が紫外線のエネルギーを吸収し、元に戻るときに緑色に見える光を出すためです。太陽光でも同じように大変きれいに輝きます。

ウランガラスは1830年代にボヘミア地方（現在のチェコ）で生産が始まり、生地的美しさが話題を呼んで19世紀の間にイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ロシアなどヨーロッパ各地に広まりました。19世紀半ばにはアメリカに伝わり、欧米で人気のある色ガラスとして、食器や花器、アクセサリなどが沢山作られました。日本でも明治の初期に着色剤としてウランが導入され、明治末から大正、昭和にかけて、食器、時計などが盛んに作られました。

第二次世界大戦後、しばらく各地で製造が途絶えますが、ヨーロッパやアメリカで復活し、日本でも平成10年に、妖精の森ガラス美術館で人形峠のウランを用いた手作りのウランガラス制作が始まりました。

この展覧会では、長い歴史を持つウランガラスの中から、世界最古の制作年号を持つミルクピッチャー、ロシア皇帝ニコライ1世に愛されたゴブレット、イギリスのヴィクトリア女王が「ビルマの夕日みたい!」と感嘆した紅の花瓶、鉄道車両で用いられた前照灯、日本で最も人気の高いガラス工芸家、エミール・ガレがウランガラスで作った花瓶、「えっ、こんなものまで?」と驚くような「カミソリの砥石」や「真空管」、19世紀から現在まで女性たちを華やかに彩ったジュエリーなど、エピソードに富んだ作品を約100点展示します。

展覧会の開催に当り、ウランガラス同好会、鉄道博物館、ウランガラスの作り手、コレクター、輸入代理店、ガラス工芸家など、さまざまな分野の方々にご協力を頂きました。

関係各位に感謝いたしますとともに、この展覧会の開催が、欧米でも日本でも市民世界に深く浸透し、広く愛好されていたウランガラスの広大な世界への入り口となり、その美しさと魅力が一人でも多くの人に伝わることを祈念いたします。



ミルクピッチャー
(ボヘミア・1840年)

ネコの置物
(アメリカ・フェントン社・2009年)

女王陛下のパーミーズ
(イギリス・19世紀末)

ロシア皇帝ニコライ一世愛用のゴブレット(ロシア製・1850年頃)

展示予定作品

- エピソード1…このミルクピッチャーは、製造年号が分かる最古のウランガラスだ
- エピソード2…シャチホコみたいな「イルカの燭台」は切手になるほどの人気商品だった
展示作品:「イルカの燭台」(20世紀のレプリカ: 苔米地コレクション)
- エピソード2+1…なんでイルカがシャチホコみたいな姿になったんだろう?
- エピソード3…ヴィクトリア朝の食卓を優雅に飾った華やかな卓上飾り(エバーン)
展示作品:「エバーン」(イギリス 1885年頃: 苔米地コレクション)ほか
- エピソード4…ロシア皇帝ニコライ1世はウランガラスのゴブレットを愛用していた!
展示作品:「エナメル彩ゴブレット7点セット」(ロシア 1850年頃: 吉岡コレクション)
- エピソード5…日本人が大好きなあのエミール・ガレもウランガラスで作品を作っていた
展示作品:「雪に雀文花器」(ガレ: 滝花コレクション)など
- エピソード6…ヴィクトリア女王が「ビルマの夕日のように!」と感嘆した紅のパーミーズガラス
展示作品:「女王陛下のパーミーズ」(イギリス 19世紀末: 苔米地コレクション)など
- エピソード7…魅力的な作品作りでウランガラスを世界に広めたアメリカのフェントン社
展示作品:「豪華な孔雀柄花器」(R・Uchidaコレクション)など
- エピソード8…日本でも明治から大正、昭和にかけてウランガラスがたくさん作られていた!
展示作品:「楕円形プレスガラス小皿」三好鹿蔵 ほか (大森コレクション 全22点)
- エピソード9…鏡野町上齋原で人形峠のウランを使った唯一の国産ウランガラスが作られている
展示作品:「四季のシリーズ花瓶」4点
- エピソード10…国内のガラス作家たちが鏡野町上齋原にやってきてウランガラスを作った
展示作品:内田守+山田輝雄「花器」西川慎「時の記憶」赤澤清和「クローガラス」
- エピソード11…新森商事の仏像はウランガラスの鋳物で作られている
展示作品:「聖観音像」(大・黄)ほか
- エピソード12…えっ、これもウランガラス? ウランガラスの珍品
展示作品:「カミソリの砥石」(苔米地コレクション)ほか
- エピソード13…女性たちを華やかに飾ったウランガラスのジュエリー
展示作品:「ネックレス」(苔米地コレクション)ほか
- エピソード14…ウランガラスが焼き物の釉薬にも使われていた…
展示作品:「ウラン結晶釉花瓶」(吉岡コレクション)ほか
- エピソード15…自動車や鉄道車両の前照灯にもウランガラスが使われていた
展示作品:小糸製作所「ゴールドンローライト」蒸気機関車用 (鉄道博物館蔵)ほか
- エピソード15+1…アメリカの蒸気機関車の前照灯にもウランガラスが使われていた!



Fairywood Glass Museum

妖精の森ガラス美術館

[開館] 9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで)

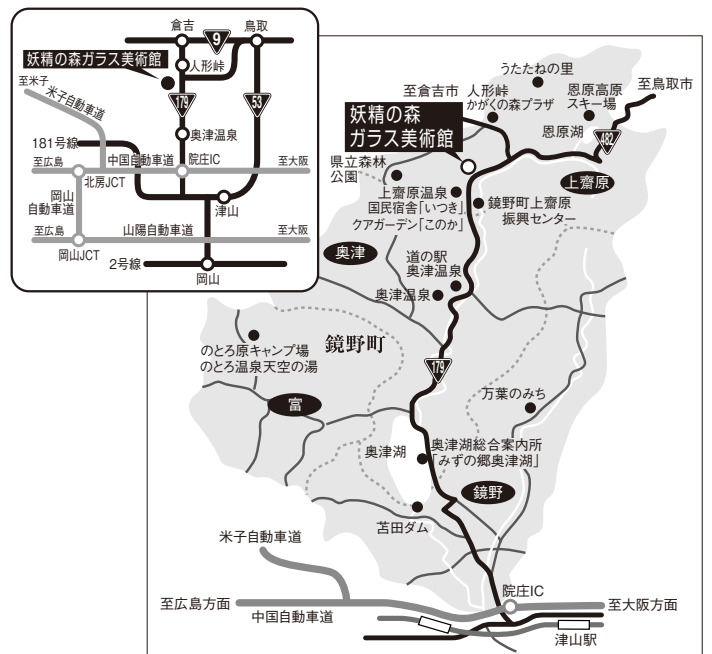
[休館日] 火曜日 / 年末年始

[入館料]

	個人	団体
大人・大学生	500円	400円
高校生	400円	300円
小学・中学生	300円	200円

●団体は20名以上
●小学生未満無料

岡山県苫田郡鏡野町上齋原666-5
TEL 0868-44-7888 FAX 0868-44-7889
<http://kanko.town.kagamino.lg.jp/fairywood/>



<Press Release>

妖精の森ガラス美術館2011年度前期企画展
「エピソードでたどる…ウランガラスの世界」展

<趣旨>

この展覧会は、長い歴史を持つウランガラスの中から特に興味深いエピソードを持つ作品を取り上げ、このガラスが欧米でも日本でもいかに深く日常生活の中に溶け込んでいたかを示そうとするものです。展示するのは、世界最古の制作年号を持つミルクピッチャー、ロシア皇帝に愛されたゴブレット、ヴィクトリア女王が「ビルマの夕日みたい!」と感嘆した紅の花瓶、明治36年に日本で作られたプレス小皿、鉄道車両で用いられた前照灯、日本で人気の高いエミール・ガシの花瓶など約100点です。市民生活に深く浸透し、広く愛好されていたウランガラスの美しさと魅力をたっぷりとお楽しみ下さい。

<展覧会概要>

会場 妖精の森ガラス美術館 2階企画展室
開催期間 2011年3月30日(水)～2011年9月26日(月)
主催 妖精の森ガラス美術館
共催 ウランガラス同好会
監修 苫米地 顯 妖精の森ガラス美術館名誉館長
吉岡 律夫 ウランガラス同好会
後援 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター
協力 鉄道博物館 滝花喜代治 池田まゆみ
開館時間 9:30～17:00
休館日 火曜日/年末年始
入館料 一般500円(400円) 高校生400円(300円) 小・中学生300円(200円)
※カッコ内団体料金(20名以上)

<展示作品>

世界のウランガラス 約100点



女王陛下の
バーミーズ
19世紀末



ロシア皇帝愛用のゴブレット
1850年頃



プレス小皿
明治36年
(1903年)



小糸製作所 蒸気機関
車用前照灯 昭和9年
(1934年)



エミール・ガシ
蓮花文花瓶
1900年頃

<お問い合わせ先>

妖精の森ガラス美術館(担当: 畠山)
708-0601 岡山県苫田郡鏡野町上齋原 666-5
(T) 0868-44-7888 (F) 0868-44-7889
kouzou.hatakeyama@town.kagamino.lg.jp